4. 事後評価・感想

平成22年度2期　授業評価調査書(学生・自己)集計結果

科　目	5600310　総合演習
担当教官	教育文化学部　学校教育課程 井門　正美
回答件数	149

質問項目1　授業の目的や目標が明確に説明されていましたか。

回答		学生評価 回答件数	%	グラフ	自己評価
5	そう思う	66	44.30%		
4	どちらかといえばそう思う	65	43.62%		
3	どちらともいえない	17	11.41%		
2	どちらかといえばそう思わない	1	0.67%		
1	そう思わない	0	0.00%		
	無回答	0	0.00%		
平均点				4.32	5.00

質問項目2　授業はよく準備されていましたか。

回答		学生評価 回答件数	%	グラフ	自己評価
5	そう思う	69	46.31%		
4	どちらかといえばそう思う	58	38.93%		
3	どちらともいえない	19	12.75%		
2	どちらかといえばそう思わない	2	1.34%		
1	そう思わない	1	0.67%		
	無回答	0	0.00%		
平均点				4.29	5.00

質問項目3　授業に対する教員の熱意が感じられましたか。

回答		学生評価 回答件数	%	グラフ	自己評価
5	そう思う	77	51.68%		
4	どちらかといえばそう思う	54	36.24%		
3	どちらともいえない	16	10.74%		
2	どちらかといえばそう思わない	2	1.34%		
1	そう思わない	0	0.00%		
	無回答	0	0.00%		
平均点				4.38	5.00

質問項目4　授業の内容や進め方は興味深いものでしたか。

回答		学生評価 回答件数	%	グラフ	自己評価
5	そう思う	76	51.01%		
4	どちらかといえばそう思う	51	34.23%		
3	どちらともいえない	21	14.09%		
2	どちらかといえばそう思わない	1	0.67%		
1	そう思わない	0	0.00%		
	無回答	0	0.00%		
平均点				4.36	5.00

質問項目5　説明は明確で十分にわかりやすいものでしたか。

回　答		学生評価			自己評価
		回答件数	%	グラフ	
5	そう思う	63	42. 28%		
4	どちらかといえばそう思う	62	41. 61%		
3	どちらともいえない	22	14. 77%		
2	どちらかといえばそう思わない	2	1. 34%		
1	そう思わない	0	0. 00%		
	無回答	0	0. 00%		
平均点				4. 25	5. 00

質問項目6　授業は学生の理解度に配慮した形で進められていたと思いますか。

回　答		学生評価			自己評価
		回答件数	%	グラフ	
5	そう思う	57	38. 26%		
4	どちらかといえばそう思う	59	39. 60%		
3	どちらともいえない	29	19. 46%		
2	どちらかといえばそう思わない	3	2. 01%		
1	そう思わない	1	0. 67%		
	無回答	0	0. 00%		
平均点				4. 13	4. 00

質問項目7　授業の内容が十分に身に付きましたか。

回　答		学生評価			自己評価
		回答件数	%	グラフ	
5	そう思う	36	24. 16%		
4	どちらかといえばそう思う	63	42. 28%		
3	どちらともいえない	45	30. 20%		
2	どちらかといえばそう思わない	4	2. 68%		
1	そう思わない	1	0. 67%		
	無回答	0	0. 00%		
平均点				3. 87	4. 00

質問項目１～７の総平均点	4. 23	4. 71

質問項目8　あなた自身の学習態度を自己評価してください。

回　答		学生評価			自己評価
		回答件数	%	グラフ	
5	そう思う	30	20. 13%		
4	どちらかといえばそう思う	63	42. 28%		
3	どちらともいえない	37	24. 83%		
2	どちらかといえばそう思わない	5	3. 36%		
1	そう思わない	1	0. 67%		
	無回答	13	8. 72%		
平均点				3. 52	0. 00

質問項目9　分科会の学習活動は充実していますか？

回　答		学生評価			自己評価
		回答件数	%	グラフ	
5	そう思う	66	44. 30%		
4	どちらかといえばそう思う	46	30. 87%		
3	どちらともいえない	9	6. 04%		
2	どちらかといえばそう思わない	1	0. 67%		
1	そう思わない	0	0. 00%		
	無回答	27	18. 12%		
平均点				3. 64	5. 00

平成22年度2期　　授業評価(総括的評価)調査書集計結果

科　　目	5600310　　総合演習
担当教官	教育文化学部　　　　　学校教育課程 井門　正美
回答件数	152

	1年次	2年次	3年次	4年次	その他	無回答	合　計
教育文化学部	3人	144人	2人	0人	0人	0人	149人
医学部	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人
工学資源学部	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人
無回答	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人

問1　この科目を履修した動機について回答してください。

回　答	人数	%	グラフ 0% 50% 100%
シラバスを参考にして履修を決めた。	40	26.32%	
必修科目・選択必修科目等に指定されていて、卒業に必要な単位であった。	109	71.71%	
就職のことを含めて、免許取得、資格取得のために必要であると判断した。	39	25.66%	
卒業研究など自分が本格的に取り組みたい課題と関連が深かった。	2	1.32%	
この授業科目に興味や関心があった。	4	2.63%	
先輩や友人から履修を勧められた。	2	1.32%	
容易に単位を取得できると思った。	1	0.66%	
特に動機はないが、その時間帯が空いているの受講することにした。	0	0.00%	
その他	0	0.00%	

問2　この授業に対するあなたの取り組み方を尋ねます。

(1) この授業の意義や目的を十分に理解できましたか。

回　答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	65	42.76%	
4	どちらかといえばそう思う	70	46.05%	
3	どちらともいえない	15	9.87%	
2	どちらかといえばそう思わない	1	0.66%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	0	0.00%	
平均点				4.30

(2) この授業への取り組みは積極的だったと思いますか。

回　答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	69	45.39%	
4	どちらかといえばそう思う	59	38.82%	
3	どちらともいえない	21	13.82%	
2	どちらかといえばそう思わない	2	1.32%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	0	0.00%	
平均点				4.27

(3) この授業を理解するために授業外に十分学習(予習・復習)しましたか。

回答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	50	32.89%	
4	どちらかといえばそう思う	52	34.21%	
3	どちらともいえない	37	24.34%	
2	どちらかといえばそう思わない	10	6.58%	
1	そう思わない	3	1.97%	
	無回答	0	0.00%	
平均点		3.89		

(4) 授業の内容が理解できなかった場合、どのように対応しましたか。

回答	人数	%	グラフ 0% 50% 100%
教員（ティーチングアシスタントを含む）に質問した。	44	28.95%	
テキストや参考書などで調べた。	21	13.82%	
インターネットを利用して調べた。	48	31.58%	
先輩や友人に質問したり、一緒に勉強した。	63	41.45%	
特に理解しようとしなかった。	11	7.24%	
その他	3	1.97%	
理解できた。			
散策やインタビューで調べた。			

問3　この授業に対する教員の姿勢や授業の行い方について尋ねます。

(1) 授業の目的や目標が明確に説明されていましたか。

回答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	64	42.11%	
4	どちらかといえばそう思う	67	44.08%	
3	どちらともいえない	15	9.87%	
2	どちらかといえばそう思わない	5	3.29%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	0	0.00%	
平均点		4.24		

(2) 授業はよく準備されていましたか。

回答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	63	41.45%	
4	どちらかといえばそう思う	57	37.50%	
3	どちらともいえない	27	17.76%	
2	どちらかといえばそう思わない	4	2.63%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	0	0.00%	
平均点		4.16		

(3) 授業に対する教員の熱意が感じられましたか。

回答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	68	44.74%	
4	どちらかといえばそう思う	54	35.53%	
3	どちらともいえない	26	17.11%	
2	どちらかといえばそう思わない	3	1.97%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	0	0.00%	

平均点	4.22

(4) 授業の内容は興味深いものでしたか。

回 答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	75	49.34%	
4	どちらかといえばそう思う	50	32.89%	
3	どちらともいえない	25	16.45%	
2	どちらかといえばそう思わない	1	0.66%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	0	0.00%	
平均点				4.30

(5) 授業の進む速さは適切でしたか。

回 答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	60	39.47%	
4	どちらかといえばそう思う	58	38.16%	
3	どちらともいえない	28	18.42%	
2	どちらかといえばそう思わない	3	1.97%	
1	そう思わない	3	1.97%	
	無回答	0	0.00%	
平均点				4.11

(6) 説明は明確で十分にわかりやすいものでしたか。

回 答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	58	38.16%	
4	どちらかといえばそう思う	56	36.84%	
3	どちらともいえない	32	21.05%	
2	どちらかといえばそう思わない	4	2.63%	
1	そう思わない	2	1.32%	
	無回答	0	0.00%	
平均点				4.08

(7) 授業中の指示や助言等を含め、学生の理解度に配慮した進め方でしたか。

回 答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	55	36.18%	
4	どちらかといえばそう思う	61	40.13%	
3	どちらともいえない	32	21.05%	
2	どちらかといえばそう思わない	3	1.97%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	0	0.00%	
平均点				4.09

(8) 授業の内容が十分に身につきましたか。

回 答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	59	38.82%	
4	どちらかといえばそう思う	68	44.74%	
3	どちらともいえない	21	13.82%	
2	どちらかといえばそう思わない	2	1.32%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	1	0.66%	
平均点				4.18

(9)その他、授業の技術、資料や教材等について、何か感じたことがあれば下欄へ書いてください。

いろいろ準備してもらい、とても助かった。
分科会によって中身の濃さが違ったと思う。なので、それらを均一化、ということではないけど、良い悪いの共有はすべきだったと思う。
先生方がとても一生懸命指導して下さり、とても助かりました。

問4　この授業全般にわたる点について尋ねます。

(1) この授業があなたの視野や教養を広げたり、学問の基礎として有益でしたか。

回答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	79	51.97%	
4	どちらかといえばそう思う	50	32.89%	
3	どちらともいえない	18	11.84%	
2	どちらかといえばそう思わない	0	0.00%	
1	そう思わない	1	0.66%	
	無回答	4	2.63%	
平均点		4.28		

(2) この授業のシラバスが授業の理解や学習に役立ちましたか。

回答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	50	32.89%	
4	どちらかといえばそう思う	54	35.53%	
3	どちらともいえない	35	23.03%	
2	どちらかといえばそう思わない	6	3.95%	
1	そう思わない	3	1.97%	
	無回答	4	2.63%	
平均点		3.86		

(3) この授業を総合的にみて良かったと思いますか。

回答		人数	%	グラフ 0% 50% 100%
5	そう思う	76	50.00%	
4	どちらかといえばそう思う	51	33.55%	
3	どちらともいえない	17	11.18%	
2	どちらかといえばそう思わない	2	1.32%	
1	そう思わない	2	1.32%	
	無回答	4	2.63%	
平均点		4.22		

問５　その他、この授業について良かったこと、改善してほしいと思うことについて自由に下欄へ書いてください。

全員の発表が見たかった。2教室にわけないでほしかった。
とてもよい時間（有意義）にできて本当によかったです。
この授業が来年からなくなるのはとても残念だと思う。
来年もあった方が良いと思う。
1日、連絡不足で全体会か分科会かはっきりしない日があったのでしっかり連絡してほしいと思った。
とても楽しい充実した分科会でした。
すばらしい内容だったので、全ての人の発表が聞きたかった。
教職導入ゼミとか、生徒の理解と指導よりも、この総合演習の方がためになったのでこの授業はつづけてほしいと思った。
全体の連絡が行き届いてなく戸惑うことが多々あった。
なくさないでほしい！
なくなんないでほしい。
発表が悪い意味で長くなりすぎず良かったと思う。
多角的な視点から総合学習を見つめることができた。
様々な分科会の発表を見られてとても楽しかった。さらに、知らなかった新たな発見がたくさんありとても有益だった。

4-1-3 学生の授業に対する感想

学生A

自分たちの分科会では先生にアドバイスを頂きながら、ほとんど自分たちの力でやりきることができた。もしかするとまた発表の機会があると先生に言われたので、その機会があればもっと改善しさらにより良いものにしていきたいと思う。今年でこの講義が無くなってしまうと聞いて非常に残念に思う。

学生B

総合演習では附属小学校や附属中学校で働く現役の先生方の話が聞けたり、それを参考にしながらそれぞれが明確な学習テーマを持ってユニークな研究を行うことができていたと思う。私自身も「遊んで学べるすごろく」というものを造って、普通に学習しているだけでは知り得なかった知識や情報を得ることができたし、学習方法の幅を広げることができて、非常に有意義な時間になったと思う。今までは総合的な学習の時間と聞いても何をすればいいのかハッキリとは分からなかったが、今回の自分の研究や他の人たちが行った研究の成果を参考にしながら、総合的な学習の時間について考えを深め実践していきたい。

学生C

総合演習の講義は、自分が興味を持ったことに関しての学習だったので、積極的に取り組みながら、楽しく学習していくことができた。全体会では総合的な学習の時間についての話を聞きながら、知識を身に付けていくことができた。分科会では、サッカーの裏に潜んでいる政治・経済・人種差別などの問題についても考えることが出来た。分科会だけでなく、普段の生活においても、多面的・多角的に物事を考えることの大切さを学ぶことができた。

学生D

今回の総合演習では、自分たちが小学校や中学校の時に行っていたものと同じようなことをしていたので、とても懐かしかった。しかし今回は小学校や中学校の時とは違い、どのようにしていくことが児童生徒にとって良いのかなどを考えながらやっていたので、今までとは違う感覚であった。自分が児童生徒にやらせたいこと、逆にそれをやらせたとき児童生はどのように感じるのか、両方の立場から考えることが出来たという点が今回の一番の収穫であったと思う。

今回、自分たちが実践して感じたこと、他のグループの発表で参考になったところをこれからの活動に活かしていけるようしっかりと整理して実践できるようにしていきたい。

学生E

「総合」という言葉の通り、各分野において様々な活動が繰り広げられていた。今回の分科会でもかなりのレパートリーがあったが、それでもまだまだほんの一部だということは、総合的な学習の時間は非常に多くの可能性があるのではないか、と思った。教師の力

量がストレートに試されるものだと思うので、様々な教科の専門家が協力した授業作りをするなど、さらなる工夫が期待できるだろう。

学生F

　総合伝習をと怖じて、実際に調査をしたり発表したりと、普段講義を受けているだけでは身に付けられなかった力をつけられたのではないかと思います。方言の調査をとおして秋田県出身者との絆も深められ、また、方言訳を通して絵本への親近感も沸いてくることを体感できました。私は読書指導に興味をもっていたため、新たな切り口を見付けられてよかったと思っています。

　また、調査や発表を通じてこれまで教材と思っていなかった事も、教材として活かせることが出来ることを感じたり、様々な分野につなげて調査活動を行うことで、教科への意欲も高められるという総合的な学習の時間の意義を体感できたことは、とても自分の力になることだったと思います。そうした点でも、この総合演習は非常に有意義なものであったと思いました。

学生G

　この講義を通して、私は 2 つの点で成長できたと考える。1 つは、考察するとはどういうことかということである。今までも調べ学習をしてきたが、調べるだけで満足してしまった自分がいたが、調べるだけでなく、そこからどうするのか、どう考えるのかということをしなければ、本当の調べ学習にならないことを学んだ。

　2 つ目は相手に情報を伝えるとはどういうことかということである。発表のパワーポイントを造る際に、どうすれば全く情報を持っていない人に伝わるのか、
伝わらないとはどういうことかを学び、理解することが出来た。これからの自分の研究に活かすことが出来るような成長ができて良かった。

各分科会担当教員による総合演習の感想

分科会 NO.2　伊藤恵造

　この授業は、学生たちが課程や教科などの狭い枠組みを越えて、より現実的な視野で一つの問題を考えていくことができるという点において素晴らしい授業であったと思います。個人的には、私が所属するスポーツ・健康教育研究室以外の学生も含めた集団（分科会）の中で、社会現象としてのスポーツを考える時間が持てたことは大変有意義なことでした。半期という時間的な制約があること、介護等体験により多くの学生が欠席せざるをえないこと、教授会と授業時間が重なっていることなど、いくつか課題を抱えている授業ではあったかと思います。しかし、2 年次という大事な時期に、学生が視野を広げられる機会を提供するという意味では、存在意義のある授業だったと言えるのではないでしょうか。

　今年度の分科会を通しての発見は、この授業をしっかりと活用しようとする学生の存在を確認できたことと、その一方でそれに十分に応えることができない私（教員）が存在したということです。現実的な視野を養っていくためには、学生のことを言う前に、教員同士が狭い学問領域から抜け出て有機的につながることが必要だったと今更ながらに思います（「総合的な学習の時間」との関係を深めきれなかったことも反省点です）。

　2008 年度から 3 年間分科会を担当させていただきました。その間、全体を取りまとめていただいた先生方に心より感謝いたします。ありがとうございました。

分科会 NO.5　内田昌功

　今回、初めて総合演習を担当させていただいた。

　学生の発表はどれも個性的で、おもしろく、また良い意味で驚かされることが多かった。主体的な思考や活動が、豊かな学びにつながることを改めて教えられた。

　分科会の活動を振り返ってみれば、反省されられるところばかりだが、一番のミスは指示を出しすぎたことである。材料やヒントを与えすぎたために、せっかくの学びの機会を大きく削ってしまったように思う。間違ってもいいので、もっと自由に考えさせ、作らせ、発表させるべきだったと思う。まさに労多くして功少なしだった。

　演習型の授業で、大切なことは教えることではなく、適切な機会を与えることということを学んだ。総合演習は大規模な形態では今年が最後なので、もう参加する機会はないかもしれないが、今後、自分の授業の中で生かしていきたいと思う。

分科会 NO.7　今野　和夫

私は「障がい者の地域生活～余暇活動を通して～」（第 7 分科会）を担当しましたが、障がい者の余暇活動の現状の厳しさや、共生とはほど遠い現状について、さらには余暇活動の大切さを、メンバーの学生たち似様々な体験を通して知ってもらえて、とても良かったと思います。

限られた気管の中で、学生たちは全体会での発表に向けて一丸となって頑張ってくれました。頑張る学生たちに対して、「きっといいまとめと発表をしてくれるだろう」と信頼を寄せられることは、私自身にとりとても幸せなことでした。とは言え、今年は 2 つの会場に分けて発表会を行ったせいもあるのか、参観者が非常に少なく、少し残念に思いました。

分科会 NO.8　斎藤　洋

昔から歌い継がれてきた童謡が、次第に姿を消してきている。しかし、忘れかけていた多くの童謡を歌い、研究を深めていくうちに童謡の魅力を再発見した。作者の童謡に対する情熱、詞やメロディーの奥深さに触れ、こんなにすばらしい童謡が消えてしまうのはあまりにも寂しく、これからも歌い継がれていくべきだと考えるようになった。

童謡には、異なる世代をつなげる、そして親と子の愛着を形成する役割がある。歌っていて心地よく、やさしい気持ちになれるものである。

地域や世代間の交流が減り、親による幼児・児童虐待が社会問題になっている現代社会において、童謡の果たす大きいのではないだろうか。その意味でも童謡を私たちは絶やしてはいけないと思う。

分科会 NO.9　寺井謙次

「ゆめおばこ」の育成は、秋田県の気候や風土に適した早生～晩生までの良食味品種のラインナップ確立の一環として、早生の「あきたこまち」に続く中生の品種として作られたものであること、さらに今後は、晩生の良食味品種の育成が課題であることを学びました。

また、秋田県では現在、「あきたこまち」や「ゆめおばこ」のような「おいしいお米」の育成だけでなく、他用途米や飼料米としての「超多収品種」の育成も進められていることなどについて理解を深めることができました。

分科会 NO.10　杜　威

　チャイニーズリングを授業に取り入れていくことで例えば高校数学の数列のように生徒にとって理解しづらい内容にも、授業に取り組みやすくなると考える。数学的活動が大切になっていく中でチャイニーズリングなど数学と関係のある教材を開発していくことが重要であると考えました。

分科会 NO.11　長瀬達也

　メンバーの意欲と努力が，色と形だけで，素晴らしい絵本を創り出しました。今の学生たちや，子どもたちは，私たちの世代より，ビジュアル的な能力が高いのではないでしょうか。このような能力，そして意欲を，教育現場の総合的な学習で，前例にとらわれず探究で発揮させていくことが大切に思えます。

分科会 NO.13　林　武司

　本年度の総合演習では多様なテーマが設定されたことにより，学生にとっては様々な視点やアプローチを学習することができる良い機会であったと思う．ただし，テーマによって受け入れ可能な人数が大きく異なったため，受講者数に大きな差が出たことは今後の課題であろう．また，テーマを 1 つだけ選ぶのではなく，2 つ（本人の希望によってはそれ以上）を選ぶようにしても良かったのではないか.

分科会 NO.15　若有保彦

　総合演習の授業を 4 年間担当して感じた成果と課題について、以下に箇条書きで記す。

　まず、成果については次の 3 点が挙げられる。

⑴ 実際に小学校へ行って授業を見学したり、調査を行ったりするなど、
学生は授業を通じて様々な体験をすることができた。

⑵ 外国の英語教科書と日本の英語教科書の比較や、小学校の児童や教員に対して行ったアンケートの集計など、卒論の予行演習にもつながる体験をすることができた。

⑶ グループでの作業を通じて、協調性を身につけたり、仲間の意見を聞いたり自分の意見を伝える過程で考えを深めたりすることができた。

　一方、課題については次の 3 点が挙げられる。

⑴ 発表時間が 15 分と限られていたため、その発表時間に見合った量の作業をすればよいという姿勢での取り組みになってしまった面も（若干ではあるが）見られた。

⑵ 外国の教科書の入手や小学校での授業見学や調査実施の依頼などで相手の協力を得る

のに苦労することがあった。
(3) 外国の英語教育の現状を調べるというテーマの場合、文献や関係資料を限られた予算と時間で入手することが難しく、結果としてインターネットの情報に依存する傾向が見られた。

これらの課題の中には解決が難しいものが多いが、(1)については（今年度のように）調べたことをホームページ等で公開することで、妥協しないで調査を進めようとする姿勢を作れるかもしれない。